

発議案第6号

「新たな県立高等学校再編計画 後期計画（案）」の盛岡ブロックにおける大規模統合計画の白紙撤回を求める意見書について

標記について、会議規則第13条の規定により別紙のとおり提出いたします。

令和2年12月22日

| | | |
|-----|---------|--------|
| 提出者 | 盛岡市議会議員 | 工藤健一 |
| 賛成者 | 盛岡市議会議員 | 鈴木努 |
| 〃 | 〃 | 小笠原秀夫 |
| 〃 | 〃 | 大谷陽介 |
| 〃 | 〃 | 兼平孝信 |
| 〃 | 〃 | 三田村亜美子 |
| 〃 | 〃 | 太田隆司 |
| 〃 | 〃 | 天沼久純 |
| 〃 | 〃 | 村田芳三 |
| 〃 | 〃 | 鈴木俊祐 |

盛岡市議会議長 遠藤政幸 様

「新たな県立高等学校再編計画 後期計画（案）」の盛岡ブロック
における大規模統合計画の白紙撤回を求める意見書

岩手県教育委員会が2月6日に発表した「新たな県立高等学校再編計画 後期計画（案）」では、盛岡市内の県立高校への志願一極集中を緩和するというを理由に、盛岡ブロックにおいて、盛岡南高校を令和4年度から1学級ずつ減らし、令和7年度に不来方高校と統合する計画が示されています。

盛岡ブロックの中学校卒業予定者は、令和2年3月では4,176人、令和4年3月4,192人、令和7年3月3,986人とほぼ横ばいで推移し、盛岡南高校への入学者を地域別に見ると、都南地区と、仙北、大宮を加えた盛岡市の南部地域と、矢巾町、紫波町出身の生徒が全体の5割を超えている状況です。盛南地域の人口増加も見込まれており、盛岡南高校と不来方高校の統合を行うことによって市内の普通高校が1校減るということは、盛岡市、都南地区の中学生にとって進路選択を狭めることとなります。

盛岡ブロックの平成30年度から令和2年度の平均学区外入学者512.7人のうち、盛岡南高校への入学は平均34.6人の6.76%であり、盛岡南高校に集中しているものでもない状況であって、統合しても地方の中学生が盛岡地区の高校へ進学希望し、選抜試験に挑戦することが妨げられることではないことから、両校の統合は盛岡ブロックの一極集中を是正するという取組には意に沿わないものであると言わざるを得ません。

盛岡南高校は東北初の体育科を設置した高校として、これまで数多くのスペシャリストを輩出し、岩手県のスポーツ競技のレベル向上に貢献してきました。不来方高校は文科系の特色ある学科を設置し、数多くの実績を残してきました。岩手県教育委員会の説明では、「特色ある学科を設置する学校についてはその特色を生かす学校として統合し、学校の魅力と活力を高める」としていますが、両校の特色は開校以来の生徒、教職員、保護者、地域が協力し合ってそれぞれつくり上げてきたものであり、同時に近接の高校として切磋琢磨し合ってつくり上げられてきたものであります。この両校の「学校の魅力と活力を高める」ためには、統合ではなく、それぞれの高校としてその特色を生かすことこそ必要だと考えます。

岩手県教育委員会は、この案に基づいて令和2年度中に計画を策定することとしていますが、地域住民への説明や議論が尽くされないままに進んでしまうことに対して、盛岡南高校の存続を願う会が呼びかけた「盛岡南高校の存続を願う。高校再編計画統合案の見直しを求める」署名は、盛岡南高校の関係者や地域の住民の間で急速に広がり、短期間に1万5,000人を超えています。そこには、盛岡南高校の同窓生をはじめ、関係者、地域住民の「盛岡南高校の存続を」の熱い願いが込められています。

よって、県においては、「新たな県立高等学校再編計画 後期計画（案）」の、盛岡ブロックにおける盛岡南高校と不来方高校との統合計画を白紙撤回するよう求めます。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出します。

令和2年12月22日

盛岡市議会